（別紙書式）

2026年耳鼻咽喉科月間優秀企画賞　申請書

作成日　2026年　4月　7日

地方部会名	秋田県地方部会
代表者名	山田武千代
活動のタイトル	「耳」の日市民公開講座
アピールポイント	秋田県内（県北部、県中央部、県南部）で持ち回りの開催 市民公開講座は、前年比2倍の111名の参加で無料相談会も開催
表彰の対象となる取り組みと波及効果を記述して下さい。図表を添付頂いてもかまいません。	活動内容と波及効果（400字から600字程度で記入してください。） 秋田県能代市の能代厚生医療センターでの開催で「秋田県」「能代市」の自治体より後援をいただいた それ以外に、秋田県難聴者・中途失聴者協会、日本言語聴覚士会秋田県地方部会、JA秋田厚生連の後援をいただいた 市民公開講座の内容は、秋田大学耳鼻咽喉科医師による2題 佐藤暢子「補聴器の使用について　知れば安心補聴器を使うということ」 　補聴器装用者であることを後半でサプライズ発表し、佐藤先生の実際の使用経験を踏まえてわかりやすく説明した 加谷悠「聞こえと物忘れ　安心して暮らすために」 　ユーモアを交えて、難聴と認知症の関連についてのお話で終了後に多数の質問をいただき適切な説明をおこなった 会場に同時手話通訳者、同時要約筆記のスクリーンを配置し、ヒアリングループ6席を準備し開催した 定員80名のところ、111名の参加をいただき、急遽椅子を手配し全員参加いただいた。前年の2倍の参加者となった 後援終了後、希望者に講演内容の書き起こし原稿、スライドの印刷物を送付した 告知 秋田県広報枠での秋田県内への新聞告知、能代市報での告知をおこなった マスコミ対応はJA秋田の提供テレビ番組、NHKラジオでの告知をおこなった 周辺、公共施設、コンビニ、スーパーマーケットへのポスター掲示（約50枚）をおこなった 地域の新聞「北羽新報」で詳細な予告記事、また、秋田全県の「秋田魁新報」「朝日新聞」「読売新聞」での告知の掲載 「北羽新報」では後援終了翌日にも取材記事を掲載いただいた ＊参加者への聞き取りでは、約半数が「北羽新報」の予告記事がきっかけで、ついで市報、その他新聞の順であった